

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104034		
法人名	(株)セービング		
事業所名	グループホーム小月		
所在地	山口県下関市小月宮の町7-3		
自己評価作成日	令和4年2月28日	評価結果市町受理日	令和4年5月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和4年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」をモットーに、入居者の皆様にとつての1日1日を大切にしています。職員に関しては、法人研修、内部研修を行い、介護の知識や技術を学び、実践につなげています。コロナ禍で外出支援が難しく、力を入れていた地域との繋がりも減り、地域行事はすべて中止となりました。コロナ前に年3回行っていた家族会も中止、施設内に入ることすら困難な状況が続いています。それでも家族と電話をしたり、LINEのビデオ通話を利用したりと家族との繋がり、家族からの支援を大切にしています。室内でのイベント(誕生日会、季節行事)や毎日のレクリエーションなどできる支援を行っております。コロナ禍で、日常的にご家族の方とLINEでやりとりすることが増え、ちょっとした日頃の様子を伝えたり、行事写真を撮って送ると「元気な姿が見れて嬉しい。安心する。」などお返事を頂きます。入居したから施設に全てお任せではなく家族と施設の双方で入居者の皆さんを見守り支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外出の機会が減少する中、利用者が図鑑を見て選ばれた、好みの花をプランターで栽培したり、枝豆やサツマイモなどの畑作りをして、水やり、草取り、収穫など、楽しみながら気分転換できるよう支援されています。家族には、事業所だよりや手紙で日頃の様子を伝えられ、窓越しの面会や短時間面会、LINEのビデオ通話、電話などで交流が途切れないように工夫されています。職員は車椅子利用者が増えてきた現状や、入室に閉じこもりがちになられた利用者の課題をミーティングで話し合われて、福祉用具を活用することで、職員自身の負担を減らしながら、利用者也安心してベッドから車椅子への移乗ができるよう工夫され、リビングで他の利用者とは交流できるように支援しております。前回の外部評価を受けての目標達成計画に沿って、毎月、心肺蘇生法や誤飲時の初期対応などの実践的訓練を行って、技術の向上に努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム小月の理念、企業理念、行動指針をホーム内に掲示し、各自目を通して。新入社の職員には理念について説明し、内部研修にも理念について取り入れている。介護をする上で様々な問題が起きた時に、理念を振り返り、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、法人の理念と行動指針と併せて事業所内に掲示している。職員は出勤後、各自が理念と行動指針を読み上げている。内部研修で理念について話し合い、日々のケアを振り返って、利用者の一人ひとりの思いを大切に、笑顔につながるケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、例年は地域の行事に参加しているが、新型コロナウイルスの影響で年度内の催しは全て中止。毎月、婦人会ボランティアや地域のコーラスボランティアがきてくださっていたが、現在も休止している状況。地域柄、高齢者が多いため、交流が難しい現状。回覧板を持って行くときや近所を散歩した際に、挨拶や情報交換を行う程度である。	自治会に加入し、職員が回覧板を持って行き、地域の人と挨拶を交わしている。総会や清掃活動、地域行事に参加していたが、コロナ禍のため、すべての催しは中止となっている。ボランティアの来訪や、小学生(クラブ活動、ふれあい学習)、中学生(職場体験)の来訪、認知症カフェの開催、徘徊者声かけ模擬訓練などは中止となっている。専門学校の実習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	婦人会ボランティア、地域のコーラスの方々との交流、それから同一敷地内で行っている認知症カフェ、地域の徘徊者声かけ模擬訓練も中止している。運営推進会議も中止をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者が職員会議にて全職員に評価の意義について説明し、管理者が自己評価書類を全職員に配布し、全職員が記入後、管理者がまとめている。自己評価を記入することで日頃のケアを見直すとともに新しい知識を得て、介護サービスの質の向上を図ることができるように取り組んでいる。また、法人内研修では、配信される動画にて介護、看護について学び、内部研修にて緊急時の対応、応急手当について継続して取り組んでいる。	管理者が職員会議で評価の意義について説明し、全職員に自己評価のための書類を配布し、記入されたものを管理者がまとめている。まとめた内容を回覧し、職員会議で話し合っケアの振り返りをしている。前回の外部評価を受けて目標達成計画をたて、毎月、職員会議の中で心肺蘇生法や異物除去法等の応急処置法を実践的に学ぶ機会を作るなど、評価を活かした改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員、地域の各団体の代表の方々に参加して頂き、利用者状況、活動状況(行事予定)、ヒヤリハット・事故等について報告を行っているが、今年度も新型コロナウイルスの感染防止のため、引き続き中止している。	会議は2ヶ月に1回開催し、入居者状況報告、行事報告、行事予定報告、ヒヤリハット・事故報告などを行っているが、この1年はコロナ禍により全回書面開催としている。メンバーには、会議議事録と共に事業所だよりを送って、事業所の現状を伝えているが、意見を得るには至っていない。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当課とは、FAXやメール、電話等で情報交換をしている。	市担当者とは、電話やファックス、メールで情報交換をして協力関係を築いている。ワクチン接種や抗原検査などについて助言を受けている。地域包括支援センター職員とは電話や手紙で情報交換をし、出向く時は短時間で済むように工夫して連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修や身体的拘束適正化委員会にて全職員が身体的拘束について学び、理解を深めている。通常、玄関の施錠はしているが、利用者が外出したい時にはその都度一緒に出たりと利用者の気持ちを大切に職員同士が協力し合っている。スピーチロックについてはその都度、管理者や職員間で話し合い、注意し合うように心がけている。	年2回の内部研修や、身体的拘束適正化委員会で全職員が身体的拘束について学んで理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしているが、外出したい利用者とは職員と一緒に外に出る等の気分転換の工夫をしている。スピーチロックがないように言葉かけに配慮して、気になるところがあれば管理者が指導したり、職員同士で注意し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待、身体拘束についての内部研修を実施し、全職員が認識を共有し、事業所内にて、心理的、身体的虐待のないよう注意を払い、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見制度についての内部研修を実施し、理解を深めている。成年後見制度を活用されている方が実際におられる。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約改定時には、ご家族様にゆっくりとわかりやすく説明し、不安な点や疑問点を尋ね、十分に理解し納得していただけるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に相談、苦情の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。いままでは家族会や面会で訪ねていたが現在も引き続き禁止のため、お電話の際やLINEでのやりとりのなかで意見や要望を尋ねている。	契約時に相談や苦情の受付体制、処理手続きを家族に説明している。事業所だよりを月1回発行して、事業所での様子を伝え、電話やLINEで意見や要望を聞いている。利用者や家族からは面会や外出に関する要望が多く、LINEのビデオ通話や電話での交流ができるよう支援している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員の意見や提案を聴いている。管理者は日常の業務の中で職員の意見や提案を聴き、判断できない場合は上司に尋ね、問題を放置せず、解決するように努めている。	管理者は月1回の職員会議時に職員の意見や提案を聞いている他、日常的に職員が意見を言いやすい雰囲気づくりをし、意見や提案を運営者に伝えている。職員からは、自身の高齢化や利用者の重度化などを考慮し、ベットから車椅子への移乗の際にスライドボードを利用することや、入浴支援にシャワーチェアを使用するなどの意見が出て、福祉用具を活用したサービスの向上につなげるなど、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社としては、ES(従業員満足)向上運動への取り組みを行っているが、職員皆が満足するところまでは達していない。人材確保が出来ておらず、改善が必要である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修 (IXEEDO) を行っており、資質向上や能力に応じて手当が支給されている。グループホーム協会に加入し、代表者は外部研修に参加できるように回覧し、案内を行っている。	外部研修は情報を提供し、希望や段階に合わせて勤務の一環として参加する機会を提供している。受講後は復命書を回覧し、職員会議で報告して職員間での共有を図っている。法人研修は動画配信によるIXEEDO研修を行って、全職員が受講できるよう工夫し、ステージ毎に年1回理解度の確認試験をしている。内部研修は月1回、職員会議の機会を活用し、接遇マナー、理念の共有と実践、応急処置法①②、食中毒・感染症の予防と対策、脱水症状・熱中症対策、緊急時の対応、看取り、ノロウィルスとインフルエンザ、権利擁護と高齢者虐待、認知症、プライバシーの保護・個人情報の取り扱い、身体拘束と高齢者虐待について、年間計画を立てて実施している。新人は、法人のマニュアルに基づき、理念を含めて日常のケアの中で、働きながら学べるよう指導している。資格取得の情報を提供するなどの支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、他施設の同業者と交流する機会があるが、コロナウィルスの影響でリモート参加であるが通信機器等の設備・設定等が十分でないため参加できていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にセンター方式に基づいた書類を家族に記入して頂き、本人の生活歴等を情報として知った上で入居者様にとってより良い介護を行えるようにしている。ご本人の思いを傾聴し、安心して生活できるように環境を整え、信頼していただけるよう努めている。ホームに入居されてからも出来る限り今までと変わらず生活を続けていただけるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの経緯、家族の思いや要望等をしっかりと聴取し、その思いを全職員で共有しサービスを提供できるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常の生活動作、身体的・精神的健康、社会関係、経済状況、住生活環境などについて、本人と家族等の「その時」のニーズを的確に把握し、適切な支援ができるように努めている。本社で一括して入居申込書や契約情報を管理し、専門職などの意見やいろいろな観点から、その人らしさを最大限に活かしたサービスを提供できるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全て行うのではなく、一緒に家事をしたり、利用者が出来ることやしたいことは可能な限り何でも一緒にいき、お互いに足りないところを補い合える家族のような関係を築けるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙では、入居者様(お父様お母様)の日常のご様子や体調、認知症の進行状況についてお知らせしている。ご家族様との交流イベントは全て中止しているが、家族といつでも繋がれるように、電話やLINEのビデオ通話を活用している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会禁止、外出は引き続き行っておらず、外部との関わりはほとんど持っていない。会うことは叶わないが、家族に年賀状や暑中見舞いを書いて送ったり、敬老の日や父の日、母の日のお祝いが送られてきた際には電話や手紙、ビデオ通話などでやり取りを行っている。	家族とは玄関先での短時間の面会や窓越しの面会など、コロナ感染状況に配慮した対応をしている。暑中見舞いや年賀状、お礼状などの手紙、電話、LINEのビデオ通話などで、交流を支援している。利用者から昔の話を聞くなどして、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく会話したり、気の合う仲間とゆっくり過ごせるように、テーブルやソファの配置など居住環境などに気を配っている。会話が困難な場合は、職員が間に入り、お互いが思いやりをもって接することができるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もどのように過ごされているか、電話を入れたり、家族に話を伺ったりしている。また退去後も数カ月は様子を見てはお手紙を送っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から記入していただいた基本情報シートを活用し、日々の関わりの中での入居者の生活の様子、葉、身体状況や気持ちに関するものを「24時間生活変化シート」に分けて記録している。施設サービス計画書作成後にサービス担当者会議を開き、情報の共有を行い、本人、家族の意向を尋ね、望む生活の実現の為、話し合いを行っている。本人への聴取が困難な場合は日頃の様子や行動をみて気持ちを汲み取り、家族からの意向を尋ね、職員間で話し合いを行う。	入居時の基本情報シートを活用しているほか、日頃の利用者の言動を24時間生活変化シートに記録して、職員間で検討して、思いや意向の把握に努めている。本人から聞くことが困難な場合は、日頃の様子や行動から気持ちを汲み取り、職員間で本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当ケアマネージャーなどから情報収集を行い、情報シートや入居時の情報収集にて、本人の生活歴、趣味、暮らしぶりを把握し、職員全員に周知している。入居されてからご本人から聞く話などの情報も職員間で共有し把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの24時間シートにからだのこと、気持ちのこと、一日の過ごし方を記録し業務前に目を通し、職員全員で把握するようにしている。申し送り時には一人ひとりの一日の様子を伝えている。また、一人ひとりの有する力をしっかり把握し、最大限に生かせるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回職員会議で個別カンファレンスを行い、本人や家族の思いや意向、主治医、訪問看護師の意見もあれば参考にして話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。毎日モニタリングを行い、月ごとにまとめ、ケアカンファレンスで話し合い、半年で見直しをしている。入居者の心身の状態に変化があれば、その都度、見直し、家族や医師、訪問看護師等に意見を確認したうえで、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者と利用者を担当する職員が中心となって、月1回の個別カンファレンスを行い、主治医や訪問看護師の意見を参考に、本人や家族の思いや意向を反映させた介護計画を作っている。計画に添ったケアをしているか毎日チェックし、月1回モニタリングを行い、6ヶ月毎に計画の見直しをしている。利用者の状況に応じてその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表や24時間シートを記入し、業務に入る前に目を通し、職員間で共有することで介護の実践や介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の意向を踏まえつつ、その都度、生まれるニーズに対して、臨機応変、柔軟な支援やサービスを行えるよう努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学校、消防署、交番、病院、公民館、スーパー、神社、市場や地域の方々の協力を得て、住み慣れた地域の中で本人が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように地域資源を把握し、活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、心療内科共に協力医療機関があり、2週に一度各々往診がある。入居前からかかりつけ医を決めている利用者には家族の協力のもとに受診して頂いている。協力医療機関往診の際には、利用者の心身の状態をしっかりと伝え、医師の診断後にはグループLINEにて往診時の内容を報告、全職員で共有している。緊急時にも電話やチャットで様子を伝え、指示を仰ぎ、必要であれば、往診に来て頂いている。歯科往診も必要に応じて往診がある。	協力医療機関をかかりつけ医とした利用者は、2週間に1回、往診を受けている。歯科は必要に応じて往診がある。入居前からのかかりつけ医や他科の受診は家族の協力を得て、支援している。受診時には医療機関に情報を提供し、受診結果は家族に面会時や電話で報告している。職員間ではグループLINEで報告するなど、全職員で共有している。連絡ノートに記入して、情報を共有している。法人の看護師の訪問が週3回以上あり、利用者の健康管理や職員からの相談を受けている。協力医療機関に連絡し、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日介護職員がバイタルチェックを行って健康管理を行い、週3日看護師の訪問により、指示や助言を受けている。日々の生活の中で、利用者の心身の状況の気づきや異変を訪問看護師に伝え相談し、その結果をグループLINEにて報告し、職員間で共有している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナウイルス感染症のため、直接入院先に出向くことが困難であるため、家族より入院先での様子や状況を確認したり、入院先の相談員と電話で情報交換や退院日等の調整を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についての指針があり、事業所でできる対応について十分に説明している。実際に重度化した場合は家族と話し合い、主治医や訪問看護師、介護職員と共に連携を図り、サービス担当者会議を開き、これからの方針を決めていくようにしている。	契約時に「重度化した場合や終末期のあり方についての指針」に基づいて、事業所でできる対応を家族に説明している。実際に重度化した場合は早い段階から家族や主治医、訪問看護師、職員で話し合い、サービス担当者会議を開いて方針を決めている。職員は内部研修で学び、協力医療機関の協力を得て、チームで看取りの支援ができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故報告書を記録し、職員間で事故防止策について検討後、回覧し、情報共有している。職員会議にて報告を行い、再検討して事故防止に取り組んでいる。内部研修にて急変時、止血、熱中症、誤嚥などについて研修を実施している。職員会議内で毎月いろんな想定で応急手当、初期対応について取り組んでいる。	事例が生じた場合は、その日の職員で検討してヒヤリハット報告書や事故報告書に記録し、回覧して情報共有している。月1回の職員会議で再検討して、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。内部研修で応急処置法や緊急時の対応、食中毒・感染症の予防と対策、脱水症状・熱中症対策、ノロウィルスとインフルエンザ、新型コロナ感染症について学んでいる。毎月の職員会議の中で心肺蘇生や異物除去等について実践的な訓練をしているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署員または総合防災職員の指導の下、火災時の避難訓練、通報訓練、避難経路の確認を行っている。訓練で、実際に通報して消防とのやり取りを行ったり、水消火器を使用して消火する等訓練している。	年2回、防災機器業者の協力を得て昼夜間の火災を想定した消火、通報、避難訓練を、利用者也参加して実施している。コロナ禍のため、地区の消防団や婦人会、地域の人の参加はなかった。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にて権利擁護について学び、入居者への尊厳や敬意の念をもって仕事に臨んでいる。日々のケアの中で不適切なケアがあれば指導し、職員会議において、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしているかどうか話し合いをしている。個人記録の保管に留意し、プライバシーの保護や個人情報の取り扱いに気をつけ守秘義務は遵守している。	職員は内部研修(年2回)で学んで理解し、一人ひとりの人格の尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば管理者がその都度指導している。個人記録の保管に留意し、守秘義務を遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いを尋ねたり、できる限り希望に沿って対応している。思いを伝えることが困難な方でも、二者択一にしたり自己決定できるように配慮している。利用者の能力に合わせ、自己決定できるよう働きかけ、本人の思いを大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れは決まっているが、職員側の都合を優先するのではなく、その人らしく暮らすことができるように一人ひとりのペースを大切に、思いに寄り添う支援をしている。臨機応変に対応できるように心がけている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて、その人らしいおしゃれができるようにしている。毎日の服装の選択や散髪(カラーリング)等の提供。爪切りや髭剃り等はその都度声かけ、清潔に気持ちよく生活できるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の配食サービス利用、温かい食事の提供を心掛けている。食事の盛り付け、テーブル拭き、お膳拭き等、できることをしてもらい、家事に参加して頂いている。季節の行事食(おせち料理、恵方巻、節句料理、七夕、土用の丑の日、クリスマス、年越しそば)や誕生日の手作りケーキなど食事が楽しみなものになるように支援している。嚥下機能の低下の場合は、食事形態(軟飯、刻み食、ムース食等)の提供、食事を自力摂取が困難な場合には、声かけをしながら食事介助を行い支援している。	炊飯と汁物は事業所で調理し、副食は法人の配食サービスを利用している。利用者の状態に合わせて食事の形状の工夫をしたり、温かい食事の提供に心がけている。利用者は職員と一緒に盛り付け、配膳、テーブル拭き、お膳拭きなど、できることを職員と一緒にしている。季節の行事食(おせち料理、恵方巻、節句料理、七夕、夏にバーベキュー、土用の丑の日、クリスマス、年越しそば)やおやつ作り(たこ焼き、ホットケーキ、バナナジュースなど)誕生日の手作りケーキや利用者の希望による海鮮丼のテイクアウトなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に合わせて、食事量の調整、とろみ、刻み、ムース食の対応している。こまめに水分補給を行っている。どうしても水分摂取が困難な場合には、一日の水分量を計量、主治医にチャットにて報告し必要に応じて医師や看護師に助言をもらい対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、傍でしっかりと見守り、必要に応じて介助を行う。各々の入居者に応じた口腔ケアを行っている。また、法人内歯科医師より口腔ケア指導や助言をもらい実践している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄できるように一人ひとり排泄のパターンを見極め、誘導、排泄チェック表に記入している。また、本人の表情や動きを観察し、トイレで排泄できるように声かけや誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	「排泄チェック表」や「24時間生活変化シート」を活用して排泄のパターンを把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳等の飲み物を飲んで頂いたり、手作りヨーグルトを提供している。食事では、食物繊維が豊富で、管理栄養士の指導の下、バランスのとれた食事メニューとなっている。運動を取り入れたレクリエーションや歩行訓練を行い、便秘の予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日行っている。個々に合わせて、気持ちよく入っていただけるように支援している。入浴剤や冬至には柚子湯にして季節感を味わってもらえるようにしている。入浴したくない利用者には無理強いないで待ったり、職員を代えたり、声かけの工夫をしている。入居者の状態や希望に合わせて、清拭やシャワー浴など個々に応じた入浴支援をしている。	入浴は毎日、午前、午後行っている。季節の柚子湯や入浴剤を使って変化を楽しんだり、歌を歌ったり、話を楽しんでゆっくりと寛いだ入浴が週2から3回できるよう支援している。利用者の体調などに合わせて、シャワー浴や清拭、足浴など支援をし、入浴したくない人には無理強いをせず、タイミングを考えた声かけをしたり、職員を変える等の工夫をして、一人ひとりに合わせた入浴を支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は利用者の半数以上の方が自然とリビングのソファで休んでおられる。夜間は特に室温や乾燥、物音に気をつけ、安心して気持ち良く眠れるよう環境を整えている。また年齢(高齢)や体調等配慮し、いつでも休みたいときにはゆっくりと自室で休めるようにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬説明書には必ず目を通し、薬の目的、副作用、用法や用量について理解している。服薬後、症状に変化があった場合、記録し、職員間で共有し、主治医にチャットで伝えている。薬の配達、セットまでは薬局(薬剤師)が行っており、わかりやすく一包化にし、ミスや飲み忘れがないように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが張り合いや喜びのある日々を過ごせるようにレクリエーション(トランプ、カルタ、風船バレー、計算、書写、ぬり絵、折り紙、ちぎり絵、体操、歌、ボール投げ、散歩など)を行い、日常生活において役割を持って生活できるように職員と一緒に言う家事(調理(盛り付け)、皿洗い、洗濯、掃除など)の支援をしている。	誕生日会、季節の行事(母の日、父の日、節分、ひな祭り、七夕、敬老会のカラオケ、クリスマス会)、書道、体操(百歳体操、タオル体操、ラジオ体操、テレビ体操、口腔体操、リズム体操、椅子体操)、風船バレー、ボール投げ、ボールころがし、カルタ、トランプ、ことわざ、歌を歌う、ぬり絵、折り紙、ちぎり絵、貼り絵、計算、編み物、新聞たたみ、食事の支度や片付け、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみなどを行う他、利用者と花の図鑑を見て好みの花を選んでプランターで栽培したり、枝豆、サツマイモ、ミニトマト、キュウリなどの畑作りをして、水やり、草取り、収穫を行って、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その都度希望があれば、敷地内や近辺を散歩している。庭の花の手入れや気分転換にベランダにでたりする。新型コロナウイルスの影響で、外食や買い物等、外出は出来ない。	事業所敷地内や近隣の散歩、玄関先のプランターの水やり、畑の草取りや収穫、ベランダでの日光浴など、外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は所持していないが、必要なもの、欲しい物はキーパーソンに確認して、立替金から購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話またはLINEでビデオ通話したり、家族に年賀状や暑中見舞いの葉書、お菓子やお花等いただいた時のお礼状と一緒に書いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく、室内にはテーブルや椅子、テレビ、ソファを配置し、入居者の方々はゆったりと過ごしておられる。窓からは、季節ごとの花や植物、山々が見え、季節感を味わうことができる。また、壁面には職員と入居者が一緒に作った作品を飾っている。温度、湿度、換気、臭いに配慮して心地よく過ごせるようにしている。	リビングは十分な広さとがあり明るく、テーブルや椅子、テレビやソファを配置し、利用者がゆったり過ごすことができる。開放的なアイランド型キッチンで、利用者は食事の準備の様子にふれ、匂いや音で生活感を感じることができる。壁面には、利用者が職員と一緒に作った作品(季節の折り紙、貼り絵、塗り絵など)を飾り、季節毎の花や観葉植物を飾っている。温度や湿度、換気、臭い、消毒に配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や台所横に椅子を置き、ひとりで休憩したり、気の合った利用者同士で話ができるように家具の配置の工夫をしている。畳の部屋があり、横になって休んだり、ゆっくり過ごすことができる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で使用していたタンスや机、布団、衣類、椅子、鏡台などを持参されている。居室内には家族写真や色紙、カレンダーやぬいぐるみを飾り、居心地よく穏やかに過ごせるように工夫をしている。	ベットや寝具、タンス、机、文机、椅子、テレビ、時計、鏡台、仏壇、遺影など、好みのものや使い慣れた物を持ち込み、家族の写真や色紙、ぬいぐるみや人形、カレンダー、本人の塗り絵や貼り絵などの作品などを飾って、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手すりを設け、安全に歩行、移動できるように家具の配置や空間に配慮されている。居室やトイレの扉には、花飾りや表札をつけ誰もがわかりやすいように工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム小月

作成日：令和 4 年 3 月 30 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が応急手当や初期対応に関して実践力を身につけるまでには達していない。	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行う。	毎月の職員会議の時間内に急変時や事故発生時等いろんな想定で応急手当や初期対応を学ぶ。(実践を含む)	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。